



福岡シティ福祉サービス

(株)東京シティ福祉サービスFC加盟店

福岡県福岡市西区内浜1-3-39 山根ビル405
TEL.092-883-9144 FAX.092-883-1142
<http://fukuoka-fukushi.com/>

介護保険の煩雑な事務を代行します！ 明確な役割分担で介護職員の資質向上に貢献

対談

社会福祉士

白石均・白石佳代

× インタビューアー「ドキュメンテーション・プロセス」

藤波辰爾

藤波 社会福祉士として福岡市内を拠点に様々な介護サービスをバックアップすると同時に、介護の仕事に従事される方々の資質向上のための研修や講習会なども主宰しておられる、福岡シティ福祉サービスの白石均さんと奥様の佳代さんにお話を伺います。高齢社会を支える基盤とも言わべき介護保険は今後ますます重要視されると思いますが、一方で利用する場合の手続きなどが煩雑で、一般の我々には一度に理解しきれぬものではないでしょうか。こちらのよう介護保険を運営する行政と被保険者の間に

立つてくれる機関が増えれば、利用者は介護保険を身近に感じることができるようになります。前置きが長くなりましたが、介護保険に関するお二人の仕事内容について具体的に伺えますか。

白石 私どもの業務は大きく三つに分かれています。まず介護保険は三年ごとに見直しされますが、「その時々々の改正内容に即して請求するのが大変」とおっしゃる事業主様のために介護保険請求サービスを代行します。また、その請求を終えた後にも国保連の審査結果によっては返戻、査定などに

なる場合があります。対処法としてケアマネジャーへの連絡調整、再請求の他、場合によっては市町村に利用者台帳の修正依頼をしなければいけないなど複雑であるため時間が掛かってしまうのです。そこで、できるだけシンプルかつスムーズに事務処理をするためのアドバイスや調査なども行います。そして今年度からの介護報酬改正で介護職員処遇改善加算が新設され、国を挙げて介護に携わる職員の資質向上に乗り出しました。それが呼応してヘルパーやケアマネジャーなどのスキルアップも積極的

にバックアップしています。福岡シティ福祉サービスの基本理念は《ごまでも、一人を大切に！》として、この理念に沿って申し上げた三つのサービスを実践することで、どなた様もより良い介護が受けられる社会になればと願っています。

分業徹底こそがゆとりを生む！

藤波 お二人はこれまでずっと福祉関係の仕事に携わっておられたのですか。

白石 私は昨秋に退職するまで十六年にわたって老人福祉施設で事務方として働いていました。長く介護の仕事にかかわっていますと介護保険の矛盾点や問題点が見えてきますが、解消できる部分や工夫しなければならぬ部分を提唱し、多くの方にもっと介護保険を上手に利用してもらうようにすることが私の役目と考え、独立して当組織を開設した次第です。

藤波 施設そのものではなく、介護に携わる人々を支援するべく手続きや申請代行、人材育成を行なう組織を立ち上げられたところに新鮮な感覚を感じます。

白石(佳代) 独立して組織を立ち上げたというと前向きな感じですが、夫が施設の事務方を退職したことは、実を申し上げますとイメージとは程遠い事情がありました。

藤波 「介護保険を多くの人に上手に利用してもらうサポートを」という言葉の背景には、隠れた事情があったとおっしゃるのですか。このあたりの経緯はご主人ではなく、奥様から聞いた方がよさそうですね。

白石(佳代) ご存じのように介護現場は業務が当たり前で、夫も事務方とはいえ、人手が足りない時はいろんな仕事をこなすことが半ば当然のようになっておりました。そんなある日、主人がふと「日曜日で仕事が休みになっても最近嬉しくないし気分も晴

れない」と漏らしたのです。私はその言葉を聞き捨てるわけにはいきませんでした。藤波 精神的にも肉体的にも限界だったのでしょうか。

白石(佳代) 私はそう思いました。と申しますのも、私の父がうつ病にかかり、快復することなく自殺したという苦い経験があったからです。母もそのことで深く苦しみ、それが遠因になったのかパーキンソン病を発症し、私は長年その介護に明け暮れました。今でも父には私や母がもっと違う接し方をしていたら救うことができたのではないかと後悔の思いがこぼれます。そういう経緯があったからこそ、休みでも気分が沈んだままという夫の言葉には敏感にならざるを得なかったのです。そこで夫にはとにかく環境を変えることが何より大切と考え、退職して違う職場を探すことを勧めた次第で、夫も私のアドバイスを受け止めて退職し、就活を始めてくれました。





介護現場は常に人手不足に悩まされているが、社会福祉士の白石均氏は「現場で職員の役割分担が徹底されていないから」と原因を分析した上で、介護施設やデイサービスセンターなどに対して介護保険に関する事務を代行する福岡シティ福祉サービスを開設した。煩雑な介護関係の事務負担を請け負い、軽減された労力をお年寄りのケアに回してもらうことで質の向上を図るのが狙いである。超高齢化とは介護する人材が減少することでもあるが、白石氏の試みがそれら問題を解決する糸口となるか見守りたい。

INTERVIEW HITOSHI SHIRAISHI・KAYO SHIRAISHI × TATSUMI FUJINAMI

藤波 色々ご苦労があったのですね。
白石 景気が低迷する今の時代に希望する職場は簡単に見付からず、気持ちが折れてばかりいました。そんな折、高齢福祉の複雑な事務や職員の資質向上を全国的に展開している(株)東京シティ福祉サービスの存在を知りまして、基本理念や高齢者に対するサポートの姿勢が私の考えと共通していたことから関心を持ちました。そして今年一月に家内と事業の詳しい説明を聞くため上京し、ぜひ福岡でも同様のサービスを実践したいとフランチャイズ契約を結んだ上で、「福岡シティ福祉サービス」として業務をスタートさせた次第です。

白石(佳代) 紆余曲折はありましたが、就活に奔走していた時とは打って変わって、何かに導かれるように物事がスーッと流れ出しました。また、独立に当たってはいろんな方にお世話になり、支えて下さった方々には心から感謝の気持ちでいっぱいです。自分達のペースを守りつつ、夫がお話した「より良い介護に繋がる様々なサービス」を少しずつ地域へ広げてまいりたいです。

藤波 介護や就活でご苦労した経験は、逆に考えれば大いに生きてきますね。

白石 介護の質を良くするために最も必要なのは分業です。経理面を担当する職員は



相互リンクで幸福な暮らしを…
藤波 年齢を考えると高齢社会は他人事ではありません。私が介護保険のお世話になる頃には、ぜひ今よりも暮らしやすい社会になってほしいと願っています。

白石 そうですね。高齢化はどなたも避けて通ることはできません。介護が必要であるものの様々な事情により家族や周囲だけで対応しきれない場合、良心的な介護サービスを提供してくれる拠点なり施設なりをきちんと配置しておけば、誰もがいつまでも安心して暮らすことができる社会になると考えます。そして介護スタッフの人達が「ここはもう少しこうしたい」と日頃から感じていることを行動に移し、スタッフ同士で助け合いながら介護に専念できるよう、

それだけに集中し、ヘルパーや介護士は施設の利用者様の食事や入浴運動など日常生活のお手伝いに専念する役割分担ができていなければなりません。ところが、日本の介護現場では人材不足もあって分業がまったくと言っていいほどできていないのが実情です。厨房の職員が足りないからとヘルパーが駆り出され、入浴時には事務方がデスクワークを放ったまま利用者様の介助をする——このように一人で何役もこなすのが当然のように求められているわけです。しかし、そんなことが続けられていては充実した介護ができる可能性は限りなくゼロです。そこで「事務は私どもに任せて頂き、施設の職員の皆様は本来の業務に専念させてもらいませんか?」ご提案しているわけです。

白石(佳代) 介護保険の見直しなど根本的な部分は厚生労働省にお願いしなければなりません。分業は介護の質を確実に良くしますので、お年寄りが暮らしやすい社会に変えていきたいと意気込んでおります。

私どもは介護の事務代行やスタッフのスキルアップを積極的にいろんな方法で発信していかなければならないと考えます。

藤波 単に介護サービスを行なう機関や施設ではなく、そのレベルアップを図るためにどうすればいいかを見据える組織の存在は、今後ますます注目されるでしょう。こちらのようないい拠点が増えることを切に願っています。最後に将来的な目標や夢についてそれぞれお聞かせ下さい。

◇ INFORMATION

介護保険請求代行サービスとは
サービス事業所で行ったサービスの実績を、事業所に代わって、当事業所が関係機関へ請求を行うサービスです。介護報酬請求は月毎の業務であり、ある程度の知識を必要としますが、専門の職員を雇うのは難しいのが現状です。

介護保険請求の流れ

事業所様へのご準備頂く具体的な手順・資料
初回だけ発生する項目……… 国保連へ請求するための変更手続き
毎月、ご準備いただく資料……… サービス実績提供票・領票

請求後、事業所へ届送る書類
お預かりした原本資料
レセプト(介護給付明細書)
給付管理票
居宅介護支援介護給付明細書



白石 例えば、認知症のお年寄りが近い将来三〇〇万人に達すると試算されており、今のうちに彼らに対応できる社会的な環境を醸成しておかなければなりません。介護の分業でお年寄りを温かくケアし、誰もがいつまでも暮らしやすい社会をつくっていくことに力を注ぎたいと思っています。

白石(佳代) 私の母は亡くなる前の三週間を緩和ケア病棟で過ごさせて頂いたのですが、そこでのスタッフのケアがプロフェッ

ショナルなもので今なお印象に残っております。それだけに介護の現場でも行き届いたケアができる多くのプロフェッショナルが育つよう、人材育成に取り組む夫を更にサポートしたいと思います。また、私の父がうつ病から自殺してしまったことをお話ししましたが、その経験から自殺した親を持つ子供達のことについても気になっております。今後はSNSなども活用して、親を亡くしたことで様々なマイナス感情に捕らわれている子供達に立ち直るきっかけをつかんでもらえるような場づくりにもかかわっていきたいですね。そして介護とリンクさせながら、すべての人が助け合える社会を構築できれば言うことはありません。

藤波 日本における福祉の新しいスタイルを明示してもらったような感じで、私自身とても勉強になりました。分業が当たり前の時代になるよう、更なるご活躍を期待せずにはいません。頑張ってください。